

海軍ニュース：中国が南シナ海航海識別区及び水中識別区を設立

漢和防務評論 20160831 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、南シナ海に防空識別圏のほか、航海識別区及び水中識別区を設立し、制空権、制海権の確保を容易にしようと図っています。
設立に必要な装備品は現在配備中のものもあれば開発中のものもあるようです。
中国は固定式ソナーなどを尖閣諸島周辺に勝手に設置する恐れがないとも言えません。破壊できる法的根拠は大丈夫でしょうか。

KDR シンガポール平可夫特電：

信頼できる中国戦略情報筋によると、中国海空軍は、南シナ海に防空識別圏を設立するだけでなく、航海識別区、水中識別区を設立しようとしている。防空識別圏は公表されるが、水中識別区及び航海識別区は公表されない。水中識別区は、曳航ソナー及び島礁の海底に設置するソナーを主装備とする識別区を指し、主として“中国領海”及び“経済専属海域”に進入する米国、日本、東南アジアの潜水艦を監視する。航海識別区は、主として島礁に配備された対海搜索レーダーによって“中国経済専属海域”及び“中国領海”に進入する米軍、日本、台湾及び東南アジア国家の水上艦艇を監視する。一旦、米軍潜水艦、水上艦が中国の南シナ海水中識別区及び航海識別区に進入した場合は、直ちに中国海軍が追跡監視を実施する。

中国は、すでに最近埋め立てた 7 個の島礁から 12 海里範囲を中国領海であると宣言した。国際法に基づき一旦この説が成立したならば、中国は、周囲 200 海里を経済専属区とみなす。

KDR は、中国が南シナ海に航海識別区、水中識別区を設立することは、防空識別圏の設定に比べ軍事的意義が高いと考える。このことは、中国が 7 個の島礁及び永興島にさらに多くの対海搜索レーダー、水中監視機器、曳航ソナー、環礁海底ソナーシステムを建設することを意味する。これらの設備は外からは見えないが、米軍、日本軍の潜水艦活動を速やかに発見し、これら潜水艦の北上及び台湾海峡方面への進入を阻止する。

永興島に建設される水中識別装置の軍事的用途は、戦略的意味がある。KDR は、海南島に配備されている 094 型戦略ミサイル核潜水艦（SSBN）と重要な関係があると考えられる。中国海軍は、南シナ海の水深を利用し、094 を海南島及び永興島の間での防空、航海、水中識別区を遊弋させ、米国の対潜システムのこれらの地区への接近を阻止しようとしている。現在中国は、3 艘のすべての 094 型 SSBN を海南島に配備している。

航海識別区を建設することは、識別区内で中国海軍は陸上発射型対艦ミサイルを配備することを意味する。一旦有事になれば、中国海軍は航海識別区を直接封鎖できることを意味する。YJ-62 型陸上発射対艦ミサイルはすでに永興島に配備されている。射程は 300 KM 以上で、中国の言う 200 海里経済専属区を封鎖するには十分である。

水中探知装置について、近年来、杭州第 715 研究所は相当多種類の島嶼用水中ソナー、曳航ソナーを開発した。これらのソナーは基本的に固定式で、通常、アクティブとパッシブを結合させたものである。探知距離は 50 KM ないし 100 KM と様々である。中国は、すでに光ファイバー水中探知系統の開発を長年行ってきた。簡単に述べると、これらの探知系統は、感度の極めて高い多くの水中固定感応器で構成され、永興島及びその他人造島礁の水面下に設置されている。探知された水中情報（米、日の潜水艦情報）は光ファイバーを通じて中国南部戦区の一体化対潜指揮聯合作戦センターに伝送され、分析され、データ処理され、必要ならば直ちに追跡が開始される。

また中国スパイは、米国等、西側国家で極力関連技術情報を収集している。2016 年 4 月、米国居住の中国公民が米国の水中無人機技術を不法に中国に持ち出そうとした事件が発生した。検察側は、彼女は、少なくとも、水中電纜、ソナー等の部品を獲得し中国に渡ろうとした、と述べている。ソナーを携帯した水中無人機は、遊動式ソナーのプラットフォームになる。

中国は、東シナ海で防空識別圏のほかに、“東シナ海一体化聯合作戦指揮センター” 隷下に航海識別区、水中識別区を建設するであろうか？消息筋は未確認であるが、KDR としては、中国が南シナ海方式を台湾海峡及び東シナ海にも適用すると信ずる。しかし東シナ海及び台湾島東岸では、中国は埋立工事を行っていないので、海底への固定ソナーの設置は技術上困難である。

永興島飛行場の建設から見えること。巨大な格納庫は“高新技術”で建設され

ている。“高新 7 工程”は、対潜哨戒機の事業である。また巨大な軍港建設から見えること。水中識別区は探知、識別、追跡の一体化した総合システムであることだ。一旦、米、日、台、ASEAN の潜水艦を探知したら、中国の対潜哨戒機及び潜水艦は、直ちに 3 度の空間（水中、水上、航空）からの追跡を行う。

また南シナ海水下識別区の建設は、永興島に専用の潜水艦基地を建設する可能性が極めて高いことを意味する。平時は交代制で潜水艦を進駐させる。専用の潜水艦基地は容易に識別できる。特殊な地上修理施設が必要だからだ。現在は、これらの施設は見当たらない。

以上